

樋管工事における生産性向上の取り組みをご紹介します。

コンクリート構造物を築造する際には鉄筋が設計図面通りに配置されているか確認することは重要です。樋管などの重要構造物では鉄筋組み立て完了時に監督職員による段階検査を実施しています。

これまでの検査方法は、検査する鉄筋にテープでマーキングし鉄筋径や鉄筋間の寸法をノギスやメジャーを使って確認していました。今回、荒波樋管新設工事の施工にあたり施工者の岡田土建では生産性向上のために「AI配筋検査システム」を導入しました。

AI配筋検査システムでは、専用のタブレット端末を利用し組み上がった鉄筋を撮影。画面上で鉄筋を指定すると鉄筋径、間隔が表示され設計値と整合が取れているか表示され、出来形管理図表まで自動作成されます。

岡田土建の石毛龍介監理技術者によると、このシステムを使用した場合従来かかっていた時間よりもトータルで**約78%も時間が削減**されたものと試算されました。



従来は検査する鉄筋にテープでマーキングし、1箇所毎にコンバックス、ノギスで確認



専用のタブレット端末で撮影

工事名：R 5 利根川左岸荒波樋管新設工事
 工期：R6.4.1～R7.3.4
 受注者：岡田土建（株）



専用タブレットで撮影し、画面上で鉄筋を指定すれば、鉄筋径、間隔が自動表示され、出来形管理図表まで自動作成される

